

主な施策について、成果がわかりやすいよう  
代表的な箇所を事例として整備効果をまとめました。

洪水災害対策の推進～豪雨等の災害に強い基盤づくり～ . . . P1

○十郎川や鎌田川において浸水被害の軽減が図られ、治水安全度が向上しました。

土砂災害対策の推進～豪雨等の災害に強い基盤づくり～ . . . P2

○要配慮者利用施設等の安全が確保されるなど、地域の安全性が向上しました。

インフラ耐震対策の推進～地震に強い基盤づくり（橋梁耐震化）～ . . . P3

○第一次緊急輸送道路においてすべての橋梁の耐震化に着手し、隣接都県からの輸送ルート等の機能が確保されました。

インフラ耐震対策の推進～地震に強い基盤づくり(下水道管路耐震化)～ . . . P4

○緊急輸送道路を中心に整備を進め、災害時の安全性が確保されました。

基幹農道整備の推進～産業の競争力強化に向けた基盤づくり～ . . . P5

○集落間を結ぶ農道の整備を進め、農業生産性の向上及び農産物の流通の合理化が図られました。

渋滞箇所解消の推進～産業の競争力強化に向けた基盤づくり～ . . . P6

○渋滞箇所の整備を進め、渋滞長や信号待ち回数の減少など改善が図られました。

リニア駅アクセス圏域の拡大～リニア開業効果の県全域への波及～ . . . P7

○地域高規格道路やスマートインターチェンジの整備により、リニア駅への30分アクセス圏域の拡大が図られました。

甲府駅南口周辺地域の再整備の推進～市街地の活性化～ . . . P8

○甲府駅南口駅前広場や平和通りの整備を進め、利便性の向上、賑わいの創出を実現しました。

森林整備の推進～豊かな森林資源の利活用～ . . . P9

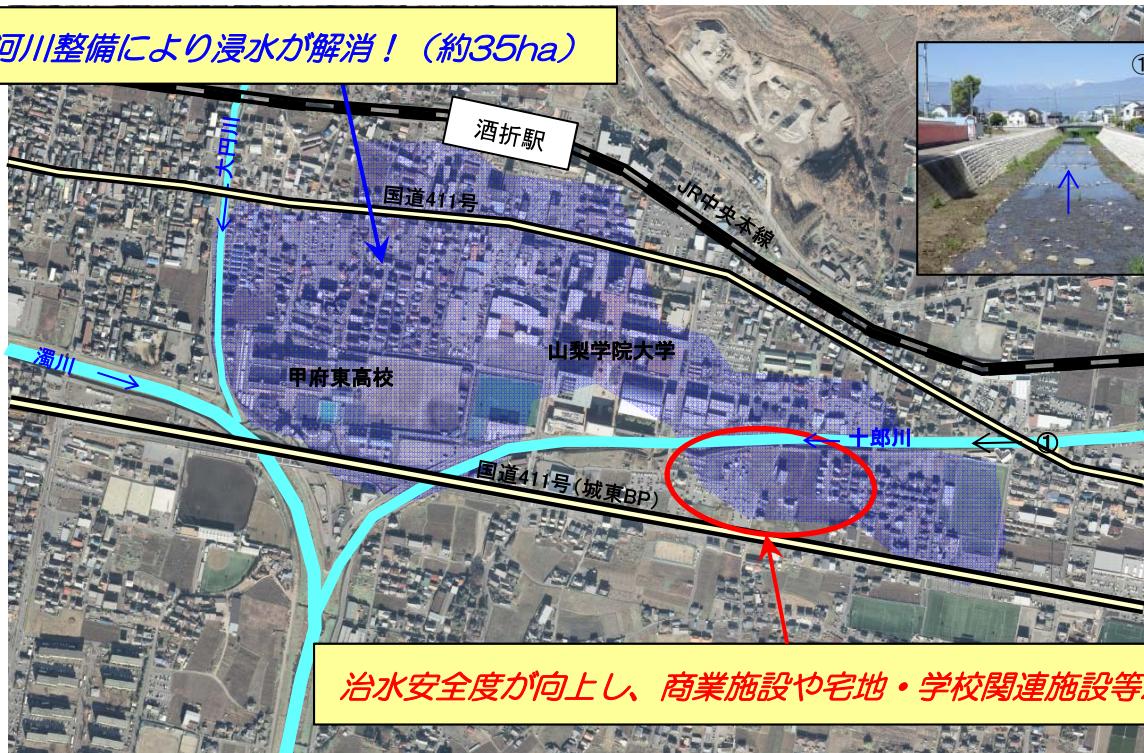
○間伐等の森林整備を実施し、水源涵養機能や表土流出防止機能など森林の多面的な機能が確保されました。

# 洪水災害対策の推進 ～豪雨等の災害に強い基盤づくり～

## ◆主な整備効果

### 十郎川整備効果

河川整備により浸水が解消！（約35ha）



治水安全度が向上し、商業施設や宅地・学校関連施設等が立地

### 鎌田川整備効果

#### JR身延線今川橋梁整備状況



- ・流下能力が約3倍に向上！
- ・洪水時※の水位が約3m低下！

※H29.10 出水時

OH27～H29の3年間で河道拡幅、護岸工等2.9kmの河川改修を実施。



- 十郎川においては、商業施設の進出や宅地・学校関連施設等が立地した。
- 鎌田川においては、流下能力が大幅に向上し、浸水被害の軽減が図られた。
- 更に、河川内の伐木・浚渫を実施し、治水安全度の向上にも努めている。

今後も計画的に河川整備を進め、H31目標の達成を目指す。

# 土砂災害対策の推進 ～豪雨等の災害に強い基盤づくり～

## ◆主な整備状況

山梨県



法枠工 急傾斜対策  
平成27年7月 災害発生



砂防堰堤(透過構造) 土石流(流木)対策

②帯那川



③一石川



①ハツ沢

平成29年8月 完成



OH27～H29の3年間で、砂防事業を2箇所、急傾斜地崩壊対策事業を4箇所、合計6箇所事業に着手。



○保育園や老人福祉施設の安全が確保されるほか、公共交通施設や避難所が保全されることで、地域の安全性が向上する。

○新たに保全される施設

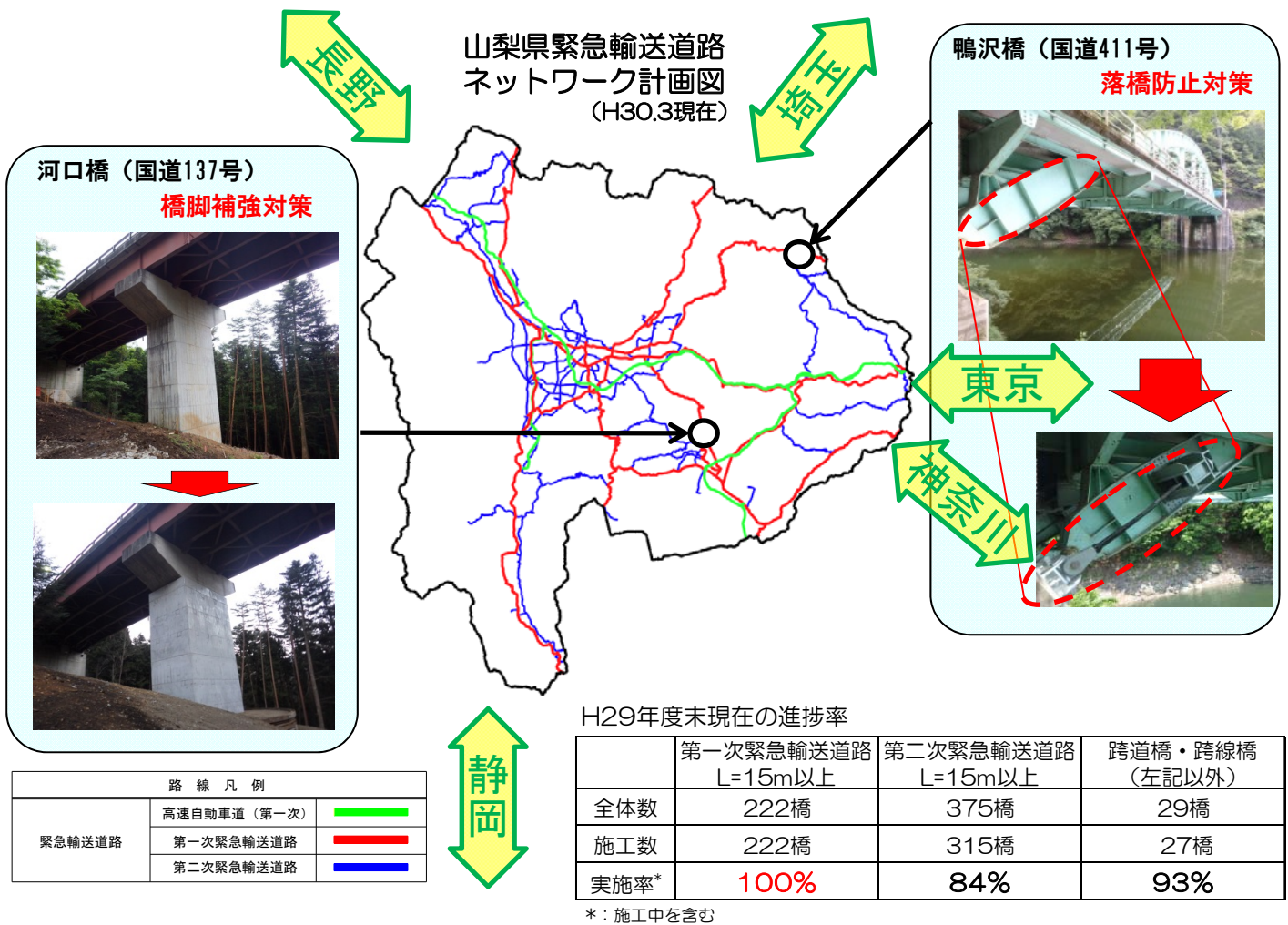
- ・保育園 2箇所 (収容定員 180名)
- ・老人福祉施設 2箇所 (収容定員 20名)
- ・第一次緊急輸送道路 国道20号 850m
- ・JR中央本線 900m
- ・地域防災計画に記載のある避難所 2箇所

今後も計画的に整備を進め、H31の目標達成を目指す。

# インフラ耐震対策の推進 ～地震に強い基盤づくり（橋梁耐震化）～

## ◆主な整備状況

### 災害時ネットワークの確保



- H27～H29の3年間で、全体の90%の耐震化に着手。
- 第一次緊急輸送道路は、218橋の耐震化が完了し、残り4橋を施工中。



○被災時に隣接都県からの救助・救援物資等の輸送ルートである第一次緊急輸送道路の機能が確保された。※施工中の4橋を除く

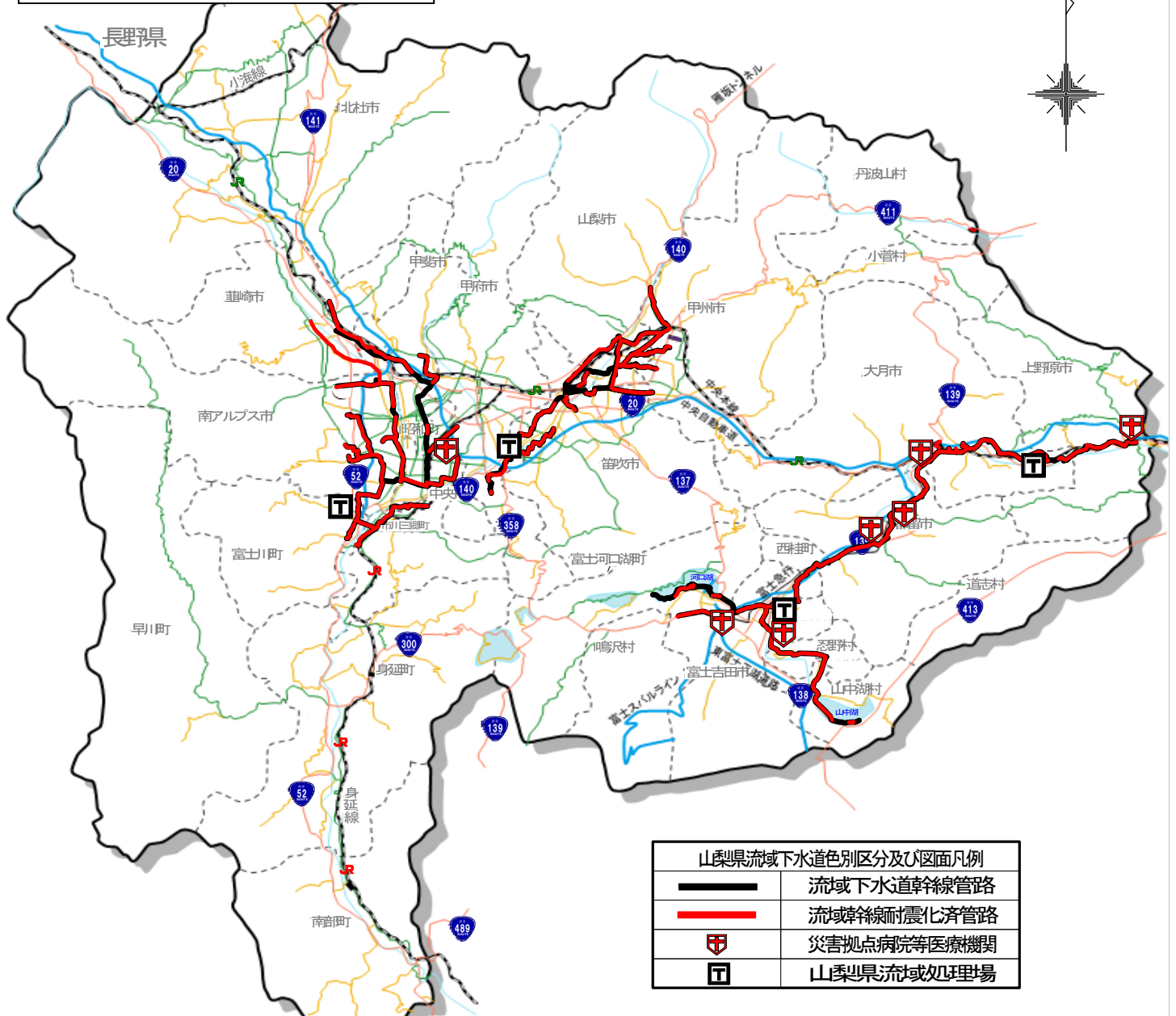
今後は、第二次緊急輸送道路の進捗を重点的に図り、県内の防災拠点を結ぶネットワーク機能の確保を進める。

# インフラ耐震対策の推進

～地震に強い基盤づくり（下水道管路耐震化）～

## ◆主な整備状況

下水道流域区分と流域幹線管路図



OH27～H29の3年間で、17.1kmの幹線管路を耐震化。



- 緊急輸送道路49路線中、42路線に埋設されている管路の耐震化が完了した。
- 災害拠点病院などからの汚水の受入れが可能となった。
- 避難場所におけるマンホールトイレの機能を確保した。

今後も計画的に耐震化を進め、H31目標の達成を目指す。

# 基幹農道整備の推進 ～産業の競争力強化に向けた基盤づくり～

## ◆主な整備状況



OH27～29の3年間で道路改良、舗装工等  
基幹農道の整備を8地区、延長2.6kmで実施し、  
基幹農道の沿線にある集落が184集落から195集落となった。

主な整備箇所：八ヶ岳南地区（北杜市）

茅ヶ岳東部地区（韮崎市、甲斐市）

釈迦堂地区（笛吹市、甲州市） など



- 集出荷施設や受益地内の集落等へのアクセス向上率が53%から55%に向上した。
- 供用を開始した地区では、大型車両による新鮮な地域農産物の輸送や緊急車両の通行が可能となり、利便性の向上が図られた。

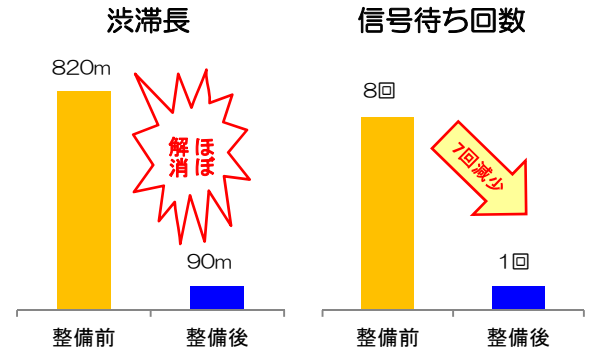
今後も計画的に基幹農道の整備を進め、H31目標の達成を目指す。

# 渋滞箇所解消の推進

～産業の競争力強化に向けた基盤づくり～

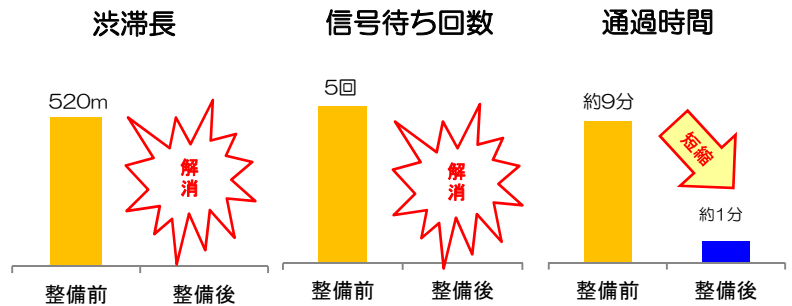
## ◆主な整備状況

### ①【十郎橋西交差点】 県道6号 甲府韮崎線 甲府市横根町



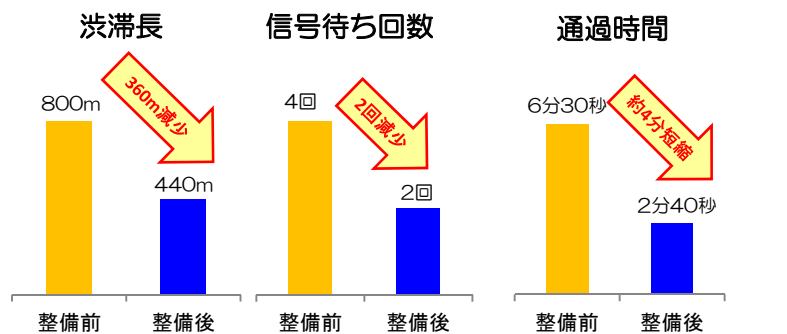
※ピーク時の状況  
甲府市街方面から山梨市方面に向かう車線 朝7時30分頃

### ②【西花輪交差点】 県道12号 韮崎南アルプス中央線 中央市西花輪



※ピーク時の状況  
浅原橋から東花輪駅方面に向かう車線 夕方6時頃

### ③【開国橋東詰交差点】 県道5号 甲府南アルプス線 甲斐市西八幡



※ピーク時の状況  
南アルプスから甲府方面に向かう車線 朝8時頃

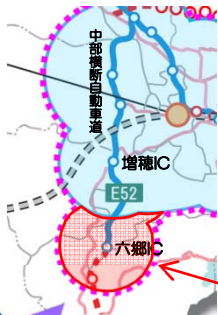
○主要渋滞箇所13箇所のうち、整備を完了した10箇所において渋滞の解消や信号待ち回数の減少など、改善効果が発現している。

今後も主要渋滞箇所の解消に向けて計画的に道路整備を進めていく。

# リニア駅アクセス圏域の拡大 ～リニア開業効果の県全域への波及～

## ◆ リニア駅から30分以内にアクセス出来る圏域

### ◆ 【中部横断自動車道】（南巨摩郡富士川町～西八代郡市川三郷町）



中部横断自動車道（増穂IC～六郷IC間）が開通したことで、峡南地域のアクセス圏域の拡大が図られた。

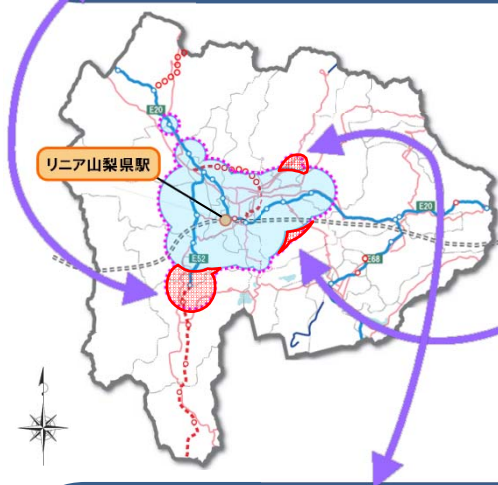
拡大エリア



六郷IC 周辺



増穂IC以南 周辺



### ◆ 【中央自動車道 笛吹八代スマートIC】（笛吹市八代町）

笛吹八代スマートICが完成したことで、峡東地域のアクセス圏域の拡大が図られた。



拡大エリア



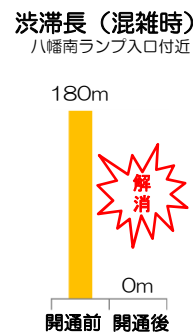
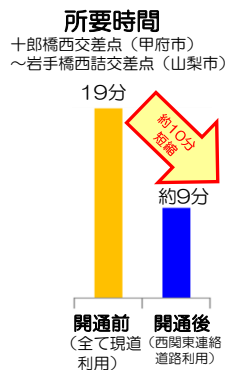
笛吹八代スマートIC 周辺

### ◆ 【国道140号 西関東連絡道路】（山梨市北～山梨市東）



国道140号 西関東連絡道路（八幡南～岩手ランプ）が開通したことで、峡東地域のアクセス圏域の拡大が図られた。

### ○整備効果



OH27～H29の3年間で以下の箇所の整備が完了

- 中部横断自動車道（増穂IC～六郷IC）
- 中央自動車道 笛吹八代スマートIC
- 国道140号 西関東連絡道路（八幡南ランプ～岩手ランプ）

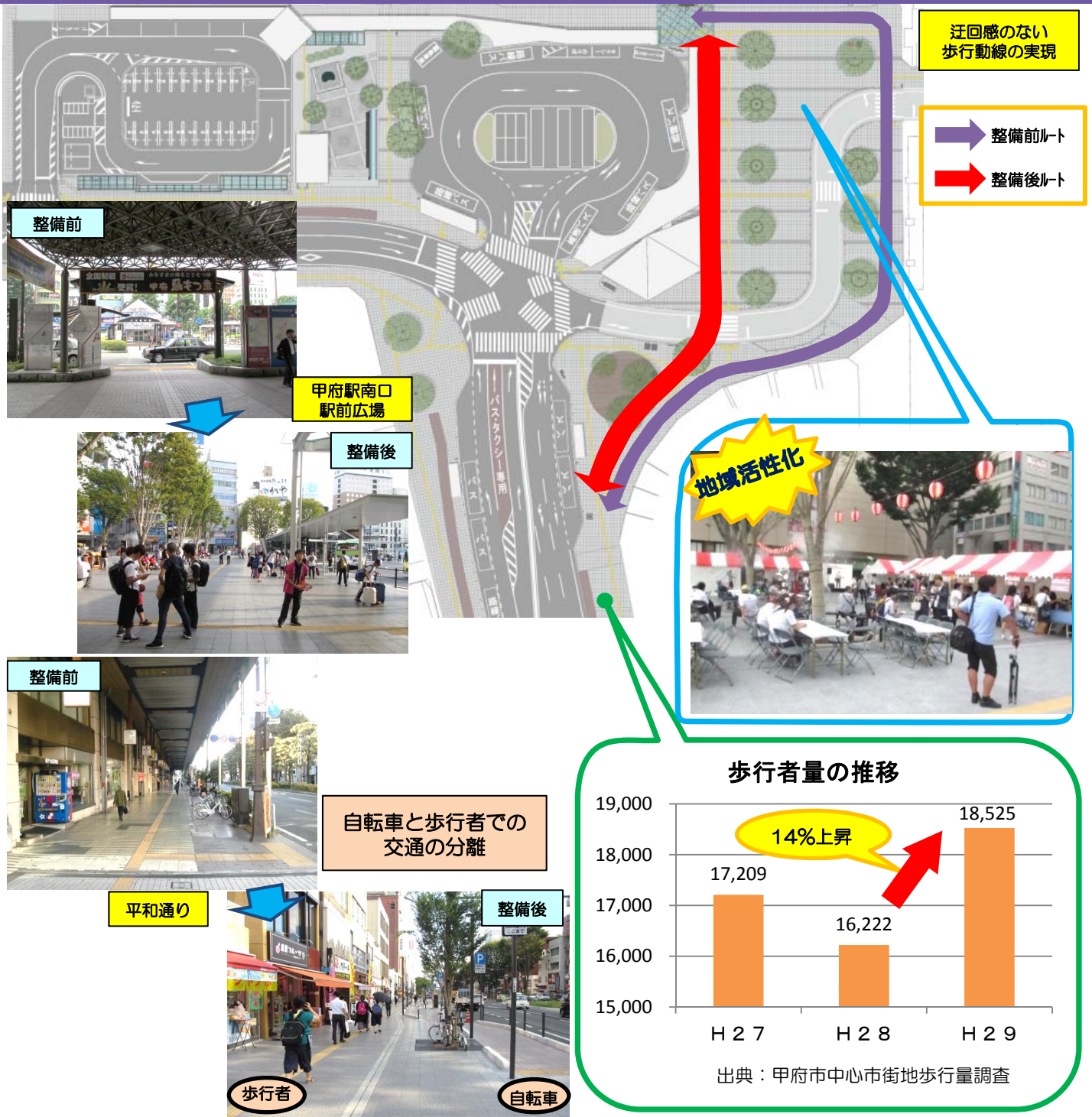


○峡南地域、峡東地域においてアクセス圏域の拡大が図られている。

今後も地域高規格道路やスマートインターチェンジなど、骨格道路網の整備を進めていく。



# 甲府駅南口周辺地域の再整備の推進 ～市街地の活性化～



OH27～H29の3年間に、甲府駅南口駅前広場の整備（H29完了）、平和通りの整備を推進。（H30完了予定）

- 駅前整備により生まれた新たな広場空間で、賑わい創出の取組みが可能になった。
- 主要な歩行ルートが直線的になり、利便性の向上が図られた。
- 平和通りは、自転車と歩行者を明確に分離し、歩行者量も回復傾向。

今後も「甲府駅南口周辺地域の賑わい増加（地域の活性化）」を目指す。

# 森林整備の推進 ～豊かな森林資源の利活用～

## ◆主な取組状況



間伐実施



混みすぎた林となっており、林内が暗く、下層植生が消失している。

県内森林の分布

適度な林内密度となり、下層に光が差し込んだ。

### ○ 間伐が適切に実施されている森林

林内に適度に光が差し込み、下層植生が繁茂しているため、水源涵養機能や土砂流出防止機能が高くなる。また、幹が太く、生育が良くなり、風や雪にも強くなる。

○H27～29の3年間で、県内の森林において  
間伐等の森林整備事業を実施

○間伐等の森林整備をH27～H29の3年間で、19,694ha（年平均6,564ha）実施し、森林のもつ水源の涵養や二酸化炭素の吸収による地球温暖化防止、表土の流出や崩壊発生の未然防止などの多面的な機能の維持・増進に寄与することができた。

今後も、これまでの実績と同水準の整備量の確保に努めることにより、H31目標の達成を目指す。